



第11号

発行日 2009年11月
編集 北海道音響事業協会
発行人 理事長 中根 慶之
事務局 札幌市中央区北7条
西15丁目28番10
事務局 加賀 芳拓
http://www.hsba.jp/

音

Otogoto

事

舞台の安全を考える

～日本舞台技術安全協会総会レポート～ 川島 俊彦

数年前から道内でも野外の大規模イベントやドームコンサートでスピーカーのフライングをする機会が増え、その安全性を気にしながらも、流れで作業をしていたのが現実でした。

この春、縁があり日本舞台技術安全協会(JASST)に入会すると共に6月26日に東京富士大学で開催された総会と安全シンポジウムに参加してきました。

この協会は音響会社に係わらず、舞台に携わる全ての会社を対象のため、多業種の方々が参加し、さながら異業種交流会のような雰囲気、会場入り口には様々なヘルメットや安全靴、トランシーバー等々安全グッズが展示されていました。

総会は他の協会と同様、大きな問題もなく淡々と過ぎていきましたが、事業活動計画の中で「労働安全衛生法に基づく終了証を交付する教育事業」の展開予定が目につきました。

休憩を挟み、安全シンポジウム2009が始まり、冒頭、清水卓治理事長からご挨拶があり、その中で協会を発足させるきっかけとなった1999年の事故の話がありました。

抜粋すると「巨大な舞台装置を作り上げるという共同作業でありながら、総合元請は不在で、舞台工事、映像、音響、照明、会場観客席設営、会場警備業務が個別に発注されるため、契約関係にない。～そして強風降雨により大事故になる。(中略)これまで、労働災害における罰則は、個別の企業の雇用者に対して課せられてきたので、安全に対する企業ごとの温度差はまちまちで、これでは安全は保障できないと痛感。安全運動は各セクションの総合的協力作業である以上、業界が共同して取り組まなければ、効果が上がらない」云々。そして昨年の墜落事故の犠牲者へ黙祷をいたしました。

続いて幹事9名がパネリストとして「安全の取り組み」について討論。今までの経験と今後の展望が各業種別に聞けたのは参考になりました。また、東京、大阪だけではなく、地方にも教育事業を展開して、安全意識のレベルアップを全国的に広めるなければひとりよがりになってしまうとのことでした。

「安全の管理体制と今後の課題」では、安全管理の組織図を提示し、事故を起こさないための組織として理解し、打ち合わせの段階で主催者を含め協力関係各位にその催事における管理体制を提示することで、事故が起きる前の手立てとなるということでしたが、一方、現実的な問題として、現場の縦割り業務にその組織図がどこまで浸透できるのか、そのうえで誰が安全優先を提言できるのか、それには法制化していくことも今後の課題ではないか云々。

感想として、各業界の方々が舞台の安全という一つの思いで真剣に討論し、事故撲滅に様々な取り組みをしていることに感嘆いたしました。机上と現場のギャップは感じましたが、それを埋めるためにも幹事会が前向きに取り組んでいるのが伺えました。ただ、残念なのはそれらの取り組みがなかなか北海道まで響いてこないということです。当協会でも今後意識し、広く皆様に情報提供を出来していく所存です。



経専音楽放送芸術専門学校

<http://keisen-housou.com/>

KEISENは「学生第一主義」をモットーとする専門学校です。

学生第一主義とは、学生一人ひとりが生涯にわたって価値ある人生を歩んでいけるよう、全力で支援していくことだと考えます。

それを具体的に示したのが「KEISENキャリア教育プログラム」です。ただ単に就職させるための手段をプログラム化したものではありません。

「キャリア」という言葉には、知識、技能、資格、就職といった意味合いが強く含まれますが、本校ではもっと幅広く「人生」や「生き方」を表す言葉であるととらえています。

そのため本プログラムは「自分にふさわしい生き方(ライフスタイル)とは？」という課題までを見すえ、自らの考えに基づいて体験・行動が出来る事が大きな特色となっています。

「KEISENキャリア教育プログラム」は①自分発見システム②校内イベント実践システム③業界タイアップシステム④経専デビューシステム⑤業界TRYシステム⑥OBネットワーク就職システムと6つの教育システムで構成されております。

開校以来、音楽・放送業界のスペシャリスト養成校として40年間の伝統を誇りに延べ3,600名を超える卒業生を輩出してきた本校は毎年専門就職へ高い就職実績を上げている専門学校です。



専門学校 札幌ビジュアルアーツ

<http://www.visualarts.ac.jp/>

充実の設備と実習中心の授業で、音楽・音響・芸能・舞台・映像・ゲーム・写真の実践型カリキュラムを実施し、新時代に適応するクリエイターを育成しています。

卒業生の中から数多くのアーティストがプロデビューしているほか、音響・パフォーマンス、映像・放送、ゲーム、写真関連企業などに多数就職しています！！

◇業界直結授業

●音楽レーベルの運営

企画からアーティスト発掘、レコーディング、CDの実制作プロモーションまで、全て学生が行います。

●オーディションイベント

学内オーディションを勝ち抜いたアーティストがデビューをかけて競うイベント「HIDE & SEEK」。多くの音楽業界関係者を審査委員に招き、プロの厳しい視線の中、競い合う本校独自のビッグイベントです。

◇施設・設備

●実習設備

「メディアホール」は本格的なホール照明や音響、巨大スクリーンを完備。バックステージ系の実習では、本番さながらのオペレーションを体感できます。

◇学生支援・制度

●デビューセンター

プロデビューを目指す在校生や卒業生のために、業界各社へのプロモーション活動やアーティスト育成を積極的に行います。デビューに向けたオリジナルカリキュラムの編成やデビューまでのマネジメント管理・育成、さらに、レコード会社やプロダクションへの窓口的役割など、卒業後もアーティスト契約をめざしてサポートします。

●クリエイティブセミナー

業界で活躍する有名クリエイターを招き、学生作品の評価に加え直接指導までしてもらえる体験講習型の授業を定期的に展開。貴重な業界の話から情報を取り入れる場にもなっています。【特別講師(一部抜粋)】是枝裕和(映画監督)・ヒラマミキオ(元:東京事変)他、敬称略

●就職実績

(株)アミューズ、(株)ウエス、(株)ソニー・ミュージック・アーティストズ、(株)ホールネットワークZEPP札幌、(株)エフエム北海道AIR-G'サッポロサウンズなど、道内外の企業多数

●平成21年度3月卒業生実績

(株)エアジーワークス、ペニーレーン24、(株)音響スタッフ 音響制作部、I.C.Cインターナショナル(株) 他多数

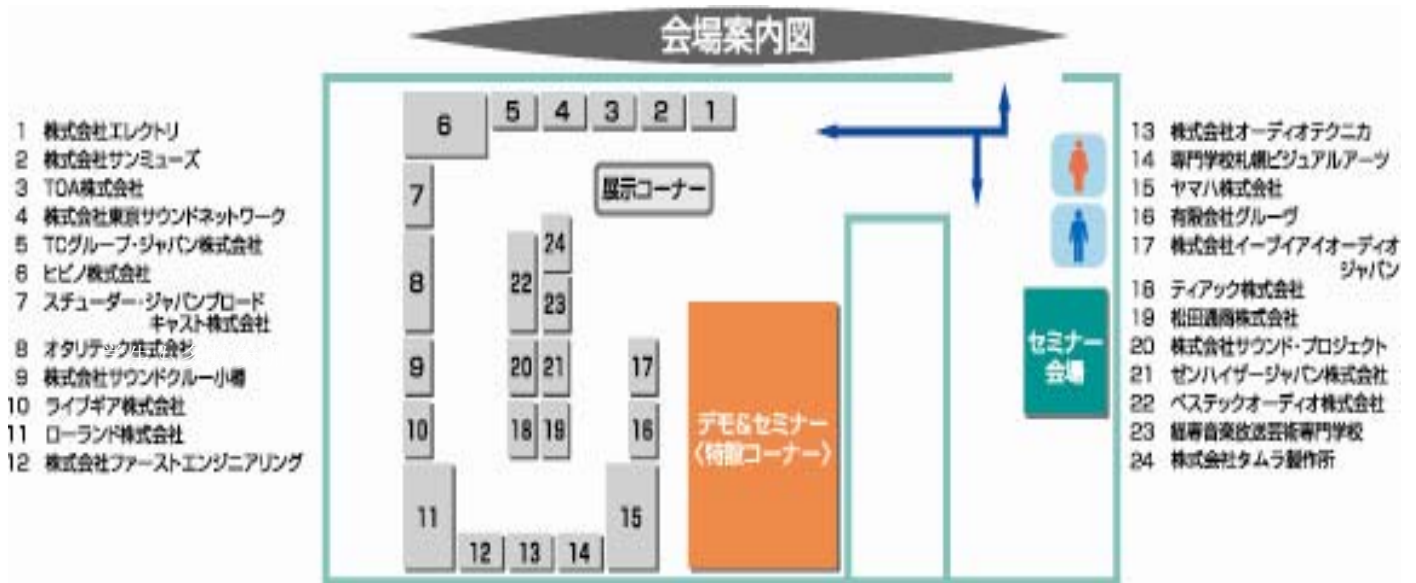


「Stage & Studio Business Fair in Hokkaido 2009」 「第11回HSBA機器展」

今年は、第11回目の新たなスタートとして、音響に限らず舞台・スタジオを中心にそれらを取り巻く全ての方々を対象とし、タイトルも昨年の10回を引き継ぎ「Stage & Studio Business Fair in Hokkaido 2009」とし「第11回HSBA機器展」を開催いたします。

開催日時 2009年12月2日(水)13:00~18:00 3日(木)10:00~17:00

会場 北海道総合体育センターきたえーるサブアリーナ 札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号



恒例 季節はずれの納涼会

今年の「季節はずれの納涼会」は9月15日、会場は恒例のTIKI TIKIが消滅しており、久々に「北海しゃぶしゃぶ」のお座敷でした。

おやおや、TCの京田さんが・・しかも羊肉のしゃぶしゃぶではなく、別鍋のようです(笑)

京田さんは春の総会にも来札しており、懇親会に出してもらいました。

当協会、来るもの拒まず大歓迎でございます。
「来ればいっしょ」って感じですかネ!

編集後記

今年のトップニュースは政権交代でしょう。この4年で何がどのように変革していくのか、各人が番人となって監視していきましょう。でも4年後って当協会の現理事諸氏はアラ還(四捨五入)です。協会も理事交代(若返り)を考えなくちゃいけないですなあ~今回一面に取り上げました日本舞台技術安全協会(JASST)が主催する「リギング技能教育初級」を当協会協力の下、2回実施いたしました。その際、会場提供していただいた経専音楽放送芸術専門学校、専門学校札幌ビジュアルアーツの両校を賛助会員紹介として二、三面で紹介させていただきました。

両校の卒業生は道内はもとより、全国で活躍しております。就職氷河期の時期ですが、やる気のある若者がまだまだいます。関係各位におかれましては両校就職担当の先生が首を長くして求人情報を待っていることをお伝えしておきます。

皆さんの情報を待っています
どんな内容でもかまいません
事務局へご一報を



編集委員
編集長 富井 昭次
ジョーダウン
編集員 川島 俊彦
ケイズ・サウンド・クリエイティブ